

町田・生活者ネットワーク 笹倉みどり 市議会レポート

2025年 町田市議会第1回定例会 所属：健康福祉常任委員会（副委員長）・議会運営委員会

3月議会 笹倉みどりの一般質問より



子どもたちに、もっと自由な時間を!!

一歩前進、冒険遊び場の環境整備活動日も補助対象に!

「遊び」は子どもにとって生きることそのもの。他人や社会との関係を学び、人として成長するために欠かせないものです。冒険遊び場は、子どもたちが何かに熱中したり、何もしないでぼんやりしたりと自由な時間ももてる居場所です。と同時に、乳幼児をもつ保護者を支援する役割も担っており、親子にとってのセーフティネットとしても機能しています。

町田市には常設型冒険遊び場が5か所あり、年間の利用者数約8万人にも上ります。地域の活動団体が市の補助金や寄附で運営しています。コロナ禍で閉園した時は、整備作業をしても開園日と扱われず、補助金の減額がありました。各団体はこのような作業を閉園して行う場合も、活動日に含まれるよう要望してきました。笹倉みどりが環境整備活動の充実の具体策を質問したところ、「2025年4月から、安全確保に関わる環境整備活動も、補助の対象に加える」との答弁を得ました。これは一歩前進です。



プレーリーダー養成講座の課題

プレーリーダーの役割は、子どもの遊びを引き出し、危機管理や場の整備、来園者とのコミュニケーションなど多岐にわたり、責任のある仕事です。そのためにも、市が主催するプレーリーダー養成講座の受講は不可欠です。この講座を公開講座とし、活動の周知に繋がったことは評価できます。しかし、せっかく実施しても、現場のプレーリーダーが参加できていない現状があります。講座参加を活動の一部とするなど、町田市の支援が必要であると訴えました。冒険遊び場を作って終わりではなく、運営の安定性、継続性を担保することこそ「子どもにやさしいまち」を掲げる町田市の子ども施策ではないでしょうか。

学校の授業のコマ数多すぎない?

今、小学校4年生以上はほぼ6時間目まで授業があり、その後も学童や塾、習い事、さらに学校の宿題も加わって毎日へとへとです。国の示す学習指導要領の改訂とともに、「標準時数」（各教科のコマ数）は、減ったり増えたり（実際には週6日から週5日になり一日のコマ数は増加）と改訂されてきました。それにともない学校現場では複雑な時間割を組んで対応していますが、文科省からは標準時数を下回ったとか上回り過ぎているなどと指導され、結果的に子ども・教員に過度な負担を強いているのが現状です。標準授業時数や学習指導要領の増加が、子どもの不登校や教職員の病休に関係しているのではないかと指摘もあります。

子どもたちの、楽しい、面白い、知りたい、という気持ちこそが学びの基本です。次期学習指導要領の改訂に向けては、その基本に立ち返って標準時数そのものについても議論されるべきです。

※学習指導要領はおおむね10年に一度改訂されている。次期改訂は2027年度の見込み。

ケアする人もされる人も大切にされるまちに

市内の高齢化率は2025年1月時点で27.4%、団塊ジュニア世代が65歳を迎える2040年には36.0%。高齢者一人を支える生産年齢人口は、2.2人から1.5人まで減少します。市内の要介護・要支援認定者数2025年1月時点で2万5382人。2040年には3万2542人まで増加する予測があります。

2024年度の介護報酬改定で訪問介護の基本報酬が引き下げられた

影響から、訪問介護事業をやめたという事業者の声を聞いています。基本報酬の引き下げだけでなく、従事者の高齢化なども大きな要因で、小さな事業所ほど厳しい状況にあります。

家族介護者に向けては市内12か所の高齢者支援センターで、「家族介護者教室」や交流会など開催しているということですが、経済的支援、家事支援などを拡充させるには、

ケアラー支援条例制定なども視野に入れる必要があると考えます。

自分が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、体力づくりや、認知症予防、地域での関係性を作っておくことももちろんですが、付き合いのある同世代の仲間と一緒にどう老いていくか、介護が目前にせまる前から様々な状況を想定したプランを自分自身で作成してみることも必要ではないでしょうか。

市政に対して、皆さんからの質問や要望をお待ちしています。お気軽にご連絡ください。

TEL 042-729-2296 FAX 042-721-9131
e-mail machida@seikatsusha.net

🔍 笹倉みどり



<https://sasakura.seikatsusha.me>